

議事録

件名	令和6年度第1回中野市地域クラブ活動推進協議会
日時	令和6年7月30日（火） 18:00～19:35
会場	中野市市民会館（ソソラホール） 小ホール
出席者	（委員） 酒井雄高、中山重光、阿藤博之、中村幹夫、廣江雅洋、佐々木正、春日建章、市川竜之介、 両澤宏樹、川上康樹、塩川咲輝（代理：松澤清一）、黒岩滉河（代理：宮崎隆） （計12名） （敬称略） （オブザーバー） 長野県教育委員会 保健厚生課 学校体育係 総括コーディネーター 吉田勝光 保健厚生課 学校体育係 指導主事 和田直也 北信教育事務所 生涯学習課 スポーツ指導主事 越田真二 長野県スポーツ協会 クラブアドバイザー 山崎吉治 （中野市） 柴本教育次長、小橋学校教育課長、丸山文化スポーツ振興課長、宮本文化スポーツ振興課長 補佐、富田生涯学習課長補佐、芋川学校教育係長、金子文化振興係長、和田指導主事、 阿藤主任主事（計9名）
資料	別添のとおり
主な内容	
進行；小橋学校教育課長 1 開会のことば（小橋学校教育課長） 18:00 2 あいさつ （柴本教育次長） 3 本協議会の目的・要領について（事務局） 「中野市地域クラブ活動推進協議会要領（案）」について、委員に諮り承認を得る。 4 自己紹介（委員ならびに事務局） 5 会長、副会長の選出 ○事務局案を提案し、委員の承認を受け以下の方に決定。 会 長；両澤宏樹委員（中野市部活動改革推進委員 豊田中校長） 副会長；中山重光委員（中野市柔道スポーツ少年団 代表） 6 協議 （座長は両澤会長） 18:13～19:33 ① 長野県の状況について（長野県教育委員会保健厚生課学校体育係 和田直也指導主事） ○「令和6年度学校部活動の地域クラブ活動への移行 進捗状況調査」「令和6年度地域スポーツクラブ体制整備事業」の2枚の資料をもとに説明。 ・協議会は令和6年度までに82%の県内自治体で設置予定。 ・「移行に向けた実証事業」へ29市町村が取り組んでいる。 ・「地域クラブ活動体制構築等への支援」「指導者確保に向けた支援」「生徒・保護者、地域住民等への理解促進」の3つが共通した課題としてあげられている。	

② 中野市の中学校部活動の地域移行の方向について（事務局 和田説明）

（資料1 「令和5年度中野市中学校部活動の地域移行推進協議会準備会のまとめ」）

（資料2 「 〃 第3回準備会 意見交換内容のまとめ」）

（資料3 「R6年度夏以降の部活動の状況と7年度の方向について」）

（参考資料1 「長野県中学生期のスポーツ・文化芸術活動指針の概要」・「長野県地域クラブ活動推進ガイドラインの概要」）

○質疑

- ・地域の指導者が少ない場合に、プロの派遣をしている事例があれば教えてほしい。
⇒県下での取組は少ないが、大学生や企業の方の派遣を依頼する自治体がある。
⇒スポーツをする方の中で、指導もできる方を増やしていきたい。文化部では、県の連盟とも連携して指導者の派遣に力を入れてほしいと願っている。
- ・ボランティアで指導される方もいるが、生活保障が必要と思う。また、部活動からクラブになれば、クラブに入らない・入れない子が増えると思う。こういった子が出ないような支援が必要と思う。

③ 地域クラブ活動について（事務局 和田説明）

（資料4 「中野市の地域クラブ活動の考え方」）

（参考資料2 「長野県中学校体育連盟主催大会への地域クラブ活動の参加資格について」）

○質疑

<クラブの位置づけ>

- ・対象とするクラブ（中野市地域クラブ）の運営主体は各クラブなのか。きちんとした団体が主宰するクラブでないと衰退してしまう。
⇒認定をしないので、それぞれのクラブが主体となって活動する。中野平中の女子バレーボール部からの地域クラブ中野平VCについて、どのような運営をされているか。
⇒保護者会が運営母体となって進めている。

<支援のあり方、設立や運営・指導者の見通し>

- ・スポ少に関わって40年になる。事務的な仕事も自分で行っているが、部活動からクラブとしての受け入れをしたので、事務量が大きく増えた。4月からの土日は1日も休みがない状況。ある程度の支援があることで、持続可能なクラブ運営ができると思う。年会費を上げることを検討している。
- ・事務局提案の中にあった「学校で行う平日のクラブ活動」について、先生方の理解は得られるか。また、部活動との違いについての説明や運営は大丈夫か。先生方の負担という意味では、中体連が主催しない場合の大会運営での先生方の位置づけはどうなるのか。
- ・指導者には、小中学校の子どもへの指導だけでなく、もっと長いスパンで見てほしい。自分でやることはできても、人に教えるというのは簡単なことではない。
- ・まさしく、「言うは易し、行ふは難し」と思う。大事なことは、継続していくための仕組みをつくることであり、継続できないときは子どもが不幸になってしまう。
- ・指導する中で、何か事故があったり、ケガをさせたりすることが考えられる。そうしたときに指導者を守るための保障が必要であり、指導者への研修も不可欠だと思う。
- ・練習をしないとうまくならないので、指導者から教わることは大事だと思う。吹奏楽の現状を考えると、平日の夕方に指導に来てもらうのは難しい。まずは、休日の指導を月1回から始めているところがあると聞く。できるところから始めてほしい。

- ・娘が、中野平V Cに所属している。この春、部活動からクラブチームへ移行したが、外部指導者が継続して教えてくれる良さは感じている。しかし、強いチーム作りを目指すようになってくると、そこについていけない子も出てくるだろう。部活動は、誰もがフラットに入れて、健全に成長する一助になってきた良さがある。クラブチームが指導者頼みになった場合、指導者がいなくなると崩壊してしまう。継続的な組織づくり、指導者への教育が大きなテーマと思う。
- ・保護者会主体、指導者主体のクラブの場合、クラブ員が思っていない方向へ向かってもストップできないと思う。勝手なクラブ運営にならないように、運営主体がきちんと監督できる必要があるのではないか。
- ・協議会には、地域クラブの運営主体を決めるという大きな役割がある。この協議会で議論を重ね、決めていけばよいと考える。認定や取消についても、教育委員会やスポーツ団体で行うことは難しい。協議会が決定機関となることが重要。
- ・中学校としてのとらえは、部活動はレクリエーション志向、クラブチームは競技志向ということによいか。
- ・部活動は、生徒の成長につながる手段と考えて教育活動へ位置付けている。部活動には、競技志向とレクリエーション志向の生徒が混在している。指導者（教師）が生徒の実態や願いを受けて、両方の生徒が楽しんでいけるよう工夫して指導している。今後、地域クラブになった時、様々な志向の生徒と一緒に見ていくことは難しく、活動の場がなくなる生徒が出てくるだろう。こうした生徒が活動できる場をつくっていくことが必要。
- ・スポーツクラブになると、競技性を重視した保護者とそうでない保護者がいる場合の運営は難しい。いくつかの選択ができるようなクラブは少なく、離脱する子が出てくる。競技志向でない子の受け皿ができるか。または先ほどの提案にあった校内クラブ活動がその受け皿になるのか。
- ・中野平中の女子バレーボールでは、クラブチームができた中で週1回の部活動は残している。クラブチームでの活動を望まない生徒がバレーボールを楽しめる受け皿と考えている。
- ・地域クラブの定義づけが難しい。提案のように中体連への参加資格を要件とした場合、参加が認められなければならないという継続性や指導者資格の有無が大きな課題となるだろう。また、スポーツ少年団は資格要件が厳しいので加入は簡単ではない。認定や線引きをするのは難しいと思われる。様々なクラブや団体ができていく方向を目指し、地域の中で受け皿を増やす方向を探していきたい。例えば体協によるスポーツ教室や中野市内での発表や大会の場を設けていくこともよいのではないかな。
- ・クラブになると加入しない生徒が増えるだろう。10人が10人何かのクラブへ所属するような指導をするか、入らない生徒への支援を考えるのかも確認しておきたい。
- ・どのような方向に進んでも、中学生を指導する指導者の研修は必須と思う。指導者育成研修、コンプライエンス研修等の実施も考えてほしい。
- ・多くのご意見ありがとうございました。今回は、運営主体、立ち上げた後の継続性、受け皿のあり方等を中心に課題を伺いました。事務局で整理して、次回の協議会にお諮りしたいと思います。（事務局 和田）

7 その他 19:33～

① 次回の予定 （事務局）

10月中には開催し、具体的な支援や地域・保護者への周知について協議を深めたいと思います。期日・会場につきましては、早めにお知らせできるよう進めて参ります。

(2) その他 意見等なし

8 閉会のことば（小橋学校教育課長） 19:35